［四街道市］　千代田中学校地区社会福祉協議会、四街道北中学校地区社会福祉協議会



住みよいまちづくりの実現へ向けて 福祉教育・地域福祉活動を地域に広げる

いきいきサロン

四街道市社会福祉協議会（以下、四街道市社協）では、地域で暮らす人々を地域で支える多様な活動を推進しています。このうち地区社会福祉協議会（以下、地区社協）は、おおむね中学校区を中心に市内6地区で活動を展開。地域福祉フォーラムは平成20年度から6地区すべてで取り組んでいます。今回はその中から、①地域ぐるみで推進している福祉教育の取り組み（パッケージ指定）、②地域の課題を地域で解決していく取り組み（地域福祉フォーラム、地域福祉ネットワーク推進事業）を紹介します。

千代田中学校地区の展開 ～福祉教育の推進～

千代田中学校地区は、学校と地域が互いに連携・協働して福祉教育を進める「福祉教育パッケージ指定」を平成23年度に県から受け、千代田中学校地区社会福祉協議会（以下、千代田中地区社協）が「福祉教育推進団体」として、また八木原小学校、南小学校、千代田中学校、県立四街道高等学校の4校が「福祉教育推進校」となって3カ年の事業を開始しました。まず4校の教員や地区社協の役員等をメンバーとした連絡会を組織し、「つなげよう、みんなで支える、福祉の力」という共通目標を決めました。千代田中地区社協は元々学校とのつながりがあり、八木原小学校にある地域福祉館を利用してサロンを開いたり、校内に地域のボランティア室があるなど、地域の大人が日頃から行き来し、児童も高齢者への給食サービスにお便り活動で参加していました。



千代田中地区社協会長
長谷川睦美さん



昔遊び（あやとり）を教わる子どもたち

実践は、4校がこれまで行ってきた学習や活動を基本に、これを深め、さらに学校・地区社協・地域で協働していくことを目指しました。例えば、八木原小学校、南小学校では合唱の発表に地域の人たちを招いたり、地域の行事に出向いて披露しています。千代田中学校では2つの小学校と行ってきた「歌声交流会」に、新たに地域の合唱サークルにも参加を呼びかけ地域の大人も参加するようになりました。四街道高等学校では、演劇部員が振り込め詐欺防止の啓発事業で寸劇を演じたり、吹奏楽部員や美術部員が地域イベントに協力するなど多様な活動を展開。千代田中地区社協は、子どもたちの学びや育ちを地域の大人が見守る八木原小ボランティア部主催の「寺子屋自学塾」に積極的に関わっています。そこには地域の大人だけでなく高校生や中学生が児童に勉強を教えにやってきています。

成果を次の活動につなげて

取り組みの成果について、千代田中地区社協会長の長谷川睦美さんは「パッケージ指定の取り組みによって学校同士のつながりを改めて意識し、学校と地域との関わりは以前より多くなりました。指定3年目の平成25年5月には4校の児童・生徒と地域の大人が集まって『活動報告発表会』を行いました。こうした活動を通じて大人と子どもは顔なじみになり、地区で挨拶ができるようになりました」とのこと。また、四街道市社協の豊田紀幸さんは、「福祉を特別なことと意識せず、例えば、好きなことを通して誰かに喜んでもらえる、互いを知るということが自然にできていると感じています。パッケージ指定の3年間はきっかけとして捉え、4年目以降の活動につなげていくのが目標です」と語ります。今後も「自分にできることは何か」を考えながらボランティアに取り組む。このようなことが地域の重点テーマとして挙げられています。



夏休み多世代交流事業「みんなで作ってみんなで遊ぼう！」

四街道北中学校地区の展開 ～支え合いの地域を目指す～

四街道北中学校地区社会福祉協議会（以下、北中地区社協）では、地域福祉フォーラムに取り組んだ3年間で中学校区内の18地区を10エリアに分けて、各エリアで年1回ずつ住民懇談会を開催。懇談会は回覧板や声掛けなどでより多くの住民への周知を図り、毎回各会場とも20～35人ほどが集まりました。住民懇談会では、①買い物など生活の困り事の支援、②ひとり暮らし高齢者の見守り、③人口が減少している自治会の機能維持、④子育て支援、⑤障がいのある人の外出支援、⑥自治会役員など人材が継続して活躍できる仕組みづくりなど、多くの課題や住民ニーズが発掘されました。

「活動を継続し、課題を分析し、『自分たちで取り組んでいけるものは取り組んでいく』ということをみんなで決めました」と北中地区社協会長の矢口廣見さん。地域における異世代交流の場の減少や、地域の子どもを地域で育てること、大人の生きがいづくり、孤立防止などのニーズや課題を踏まえ、新たな取り組みとして平成24年度より多世代交流事業を開始。具体的には地域探訪、クッキング、工作などを行い、子どもたち、その親、地域の大人たちがつながりを広げています。



北中地区社協会長
矢口廣見さん

また、高齢者の居場所づくり・交流・孤立防止を進めたいという目的から、各区・自治会にいきいきサロンを立ち上げ、展開してもらえるよう支援をしています。こうした支援を継続する中で、いきいきサロンの趣旨を十分に理解した自治会が自ら予算化し、運営してくれているところも出てきています。

北中地区社協では、地域福祉フォーラムでの3年間の取り組みを通じて関係団体とのつながりが生まれ、地域のNPO関係者や福祉関係者などさまざまな団体が連携して事業を展開しています。まとまりができてきていること、人の輪が広がっていることを矢口さんは実感しています。

四街道市社会福祉協議会

住民による取り組みを後押し

四街道市社協の鈴木陽子さんは「地域福祉フォーラムに取り組むに当たっては、課題を話すだけでは意味がないという意見が当初から出されていました。地区社協に関係する皆さんは、地域福祉フォーラムの話し合いの中で見えてきた課題を一つでも解決していこうと取り組んでいます。こうした動きは住民懇談会や総会に参加している方にも伝わり、それぞれの地域で課題解決に向け活動しています」と話します。多様な生活の困り事、社会的孤立、活動に出てこられない人の見守り・つながりをどうするのか――子どもから大人まで、他者を理解し、自分たちに何ができるのかを話し合い、できることから始める取り組みが進められています。

これら地区活動のさらなる助けになればと、四街道市では、地域福祉フォーラムの3年間の助成が終了となった平成23年度以降、「地域福祉ネットワーク推進事業」として市・市社協から6地区に対して毎年度20万円の助成を行っています。各地区は助成を受けながら地域のネットワークを広げ、地域課題の解決に向けた取り組みを続けています。



左から、鈴木陽子さん、古谷夏子さん、武田雄大さん、
豊田紀幸さん、及川哲さん

※四街道市人口：91,011人　65歳以上人口：23,660人　高齢化率：26.0%（平成26年4月現在）